

こども・若者の意見聴取進捗状況 (報 告)

大津市青少年問題協議会
福祉部子ども未来局子ども・若者政策課

こども・若者の意見反映に関する取組について

次期こども・若者支援計画策定にあたっては、以下のようなこども・若者等、当事者の意見を聴取し反映させるための取組を実施。

取組名	趣旨・目的	想定する対象者	実施期間
次期計画案に対するこども・若者向けパブリックコメント	こどもが理解しやすい計画素案（やさしい版）を作成し、パブリックコメントにより意見を聴取・反映する。	小学生・中学生	R7.1 頃 実施予定
LINEを活用した こども・若者意見聴取事業	身近なコミュニケーションツールであるLINEの機能を活用し、こども・若者から意見表明しやすい形式で意見を聴取し、反映する	高校生・大学生等 (おおむね29歳まで)	R6.10～R7.3 予定
こども・若者意見交流会	ファシリテータのもと、こども・若者支援について対面形式で意見を聴取し、反映する	高校生・大学生	R6.9.23
地域の活動からこども・若者の 思いを聴く取組	地域で行われているこども・若者向けの活動から意見等を吸い上げ、施策に反映する	地域活動を実施する関係団体 活動に参加するこども・若者	R6.6～10
声を上げにくいこども・若者の 思いを聴く取組	幼児や課題を抱えるこども・若者の声を聴くために、普段接している支援者等にヒアリングを行い、その思いを聴取し、反映する	幼児または困難を抱えるこども・若者 (不登校、障害、いじめ、ひきこもり等)	R6.6～10

意見聴取一覧

取 組	聴取先	実施時期	聴取方法
パブリックコメント	一般向け こども向け（やさしい版）	令和7年1月予定	
LINE活用	こども・若者向け	令和6年10月～予定	LINE オープンチャット 提供したテーマ（質問）への意見聴取
意見交流会	高校生 （おおつみらいミーティング）	令和6年9月23日	交流会の開催、グループワークで意見交換
地域活動	長等青少年育成協議会 （中学生居場所事業 放課後カフェ）	令和 6 年6月28日	アンケートへの記入による意見聴取
地域活動	石山学区青少年育成学区民会議 （たら川文庫）	令和6年9月27日	文庫活動に来ていた小学生に聞き取り 保護者へアンケート記入依頼
声をあげにくい こども・若者	唐崎カピバラ食堂 （不登校児童保護者）	令和 6 年7月29日	施設従事者への聞き取り
声をあげにくい こども・若者	NPO法人CASN （実施団体）	令和 6 年9月6日	施設従事者への聞き取り
声をあげにくい こども・若者	児童養護施設（施設従事者）	令和 6 年9月6日	施設従事者への聞き取り
声をあげにくい こども・若者	子ども・若者総合相談窓口相談者 （居場所事業参加者、施設従事者）	令和 6 年9月13日	当事者へのアンケート記入依頼及び聞き取り 施設従事者への聞き取り

おおつみらいミーティング

高校生対象（市内高校生11人参加）／大学生サポーター 3人
進行・協力 成安造形大学教員、職員 2人

意見聴取方法：グループディスカッション

<意見>

主 題	意見要旨
学校・校則のこと	・大人に決められた校則への不満 ・生徒が主体的に意見を言える場の不足 ・髪型の規制は個性の抑圧では？ ・校則に性別差があるのは不公平では？ ・生徒会で意見は言えるが、結果が変わらない ・紙で意見を出すなど先生に意見を伝えやすい仕組み
居場所のこと	・大型商業施設の閉店等で、高校生が放課後過ごしていたところが減っている。 ・食べ物が安いカフェやスポーツのできる施設があれば。 ・気軽に集まれる場所が不足している。 ・市内に無料で利用できる場所があればコミュニティの活性化にもなる。
意見表明について	・オンラインやLINEでの意見表明には不安がある。直接話せる機会があるのがよい ・生の声を集めてビデオを作成し、テレビ等で流すことで効果的に意見表明できる
大学生サポーターの意見	・居場所の不足とサードプレイスの重要性 ・意見交換の機会と環境（話しやすい雰囲気づくり、他校生や大学生との交流） ・校則への意見、大学生と高校生で意見共有がしやすい ・大学生と高校生が交流できるところがあれば、進路や相談が気軽にできる存在として大学生が役立つ可能性がある。

意見交流会（おおつみらいミーティング）

意見表明の場づくりについて

参加高校生の意見

今回参加してどうでしたか？

- ・自分も周りの人も言いたかったことが言えていたように感じたので、もっとこういう機会があればいいなと強く感じた
- ・普段思っているだけで言えない本音を伝え合うことができた
- ・言葉を交わさないと伝わらないことが多いので、実際にディスカッションできる場を設けてもらえたことがよかった
- ・実際に出した意見や案が、市でいつ頃、どのように話し合われるのかを説明してもらえるとよかった

意見の反映

- ◎ 本音を言い合えた、他の人がどう感じているかを知ることができた、またグループワークにおいて大学生の運営サポーターが進行を務めることで意見が言いやすかったという意見も多くあり、**同じ世代の横のつながりの場**が必要
 - ◎ 意見を言い合え、相手の意見を聴く場など直接言葉を交わすことが必要。**若者のコミュニケーションの場としても対面での機会が必要**
 - ◎ 意見を出したあと、その意見がどのように扱われるかを当事者と共有することを前提に実施することが大切。
- 基本方針1 **「社会参画や意見表明の機会の充実」、「意見表明に対するフィードバック」**について、今回の意見を踏まえ、取組を検討していく。

そのほか、参加する高校をもっと増やす、参加した高校生の感想を知ってもらうことで関心をもってもらう、高校生が気軽に相談できるしくみとして大学生が高校に行くなどの提案をいただきました。



地域の活動からこども・若者の意見を聴く取組から

中学生居場所事業（放課後カフェ）にきた中学生

中学生 36名（1年生8人／2年生15人／3年生15人） 意見聴取方法：アンケート

<意見>

質 問	回答（ ）内は回答数／複数回答あり
放課後カフェに来た理由	・ひまだから（8） ・お菓子（ジュース）がもらえるから（7） ・楽しいから、楽しかったから（5） ・友達と遊びたかったから、友達が行っているから（5） ・友達に誘われた、勧められたから（4） ・ゆっくり友達と話したいから（3） など
放課後カフェのいいところ	・お菓子やジュースがもらえるところ（15） ・ゆっくりできる、落ち着ける、落ち着く（8） ・友達と遊べる、話せる（5） ・ゲーム（カードゲーム、ボードゲーム）がある（4） ・楽しい、楽しく遊べる（3） ・好きなところができる、安心して楽しめる、話したことのない人と話せた など
放課後カフェ以外にあれば 行きたいところ	・マンガや本があるところ（3） ・運動できるところ（3） ・WI-FIがあるところ（3） ・個別で勉強できるところ、ゲームができるところ、朝カフェ など

地域の活動からこども・若者の意見を聴く取組から

文庫活動（たら川文庫）にきたこども

小学3年生 5人／5年生 3人／中学1年生 1人 意見聴取方法：聞き取り

<意見>

質 問	聞き取り内容
たら川文庫のどんなところが好き？	・本がいっぱいあって、読める、借りられる ・新しい本がたくさんある ・宿題がしやすい、宿題ができる ・勉強できる本、調べる本がある など
たら川文庫の他にどんなところがあたらいいなと思いますか	・もし、たら川文庫が毎日やっていたら、毎日くる ・本がいっぱいあるところ ・あそびに行けるところ ・図書館（もっとたくさん本があるところ） ・本屋さん ・大きい店があればゲームセンターもあるし、なんでもある など
たら川文庫には友達ときますか	・友達を誘ってくることもある。 ・誘ってこなくても来たら友達に会える、知っている人がいる。
他によく行くところは？	・学童（児童クラブ）かここで宿題している。 ・近くの大きな店とかには行く。
実施団体の方への聞き取り	・市制100周年の際にこどもの歩いて行ける場所に図書室をとの思いで開設 ・滞在時間は短い・幼稚園の迎え帰りの親子や小学校帰りのこどもが多数利用 ・過去には、不登校児童の支援や、日本語を学ぶための利用を支援したりしたこともあった。 ・本の購入にはこどもの意見を聞いている・地域、学校、行政の連携

地域の活動から子ども・若者の意見を聴く取組から

地域活動に参加しているこどもの意見から

地域活動に参加している理由、どういうところがあればいいかへのこどもたちの声から

- ・友達とゆっくりできる、話せるところ ・安心していられるところ
- ・本があるところ ・勉強（宿題）ができるところ
- ・お菓子やジュースがもらえるところ ・近くにあるところ

地域活動を実施している団体の声から

- ・こどもたちの行きやすい場所（歩いていけるくらいの場所）で実施することで参加するこどもが多くなる。
- ・こどもと顔見知りになり、地域の中で出会っても声をかけあうことができる。
- ・利用の中で、学校へ行きづらいこどもなどへ支援ができることがある。

意見の反映

- ◎こどもが歩いていけるような場所で実施される地域での活動は、日々のこどもの居場所になっている。
 - ◎さまざまな形での地域活動は、こどもの体験の機会として機能している。
 - ◎地域の大人とこどもが関わる機会であり、地域での見守りに繋がっている。
- 基本方針 2 「**多様な遊び、体験、活躍できる機会づくり**」、基本方針 4 「**多様な居場所づくり**」「**既存の地域資源を活かした居場所づくり**」について、今回の意見を踏まえ、取組、支援を検討していく。

声をあげにくいこども・若者の意見を聞く取組

子ども・若者総合相談窓口での意見聴取（居場所事業参加者アンケート）

参加者 6 人

意見聴取方法：アンケート、聞き取り

質 問	回答（ ）は回答数 ※記載のないものは 1
子ども・若者総合相談窓口は何で知りましたか	・家族からきいた（3） ・ホームページ、インターネットで ・友人、知人から ・その他（別のことで相談していて繋がった）
相談してみようと思ったのはなぜですか	・成り行きで、なんとなく（2） ・家族からきいて行ってみようと思った ・家からあまり出ていなかったので出るために
相談してみてどうでしたか	・抱えていた不安が軽くなっていった ・すぐく親身に相談を聞いてもらって、ありがたい ・少し心が気楽になった ・特に変わらない
WAIWAIスポットに参加してよかったことは	・友達ができた ・みんなで何かできること ・居心地がいい ・家族以外の人と関わることがよかった ・ものづくりやゲームなど色々できて毎回楽しい ・外にでる機会が増えた
もっとこうして欲しいことは	・やれることを増やして欲しい
あなたがやりたいこと、かなえたいことがあれば	・もっと人と接することに慣れていきたい ・就職することを目標に頑張りたい（2）
どのようなひきこもり支援があればよいか	・WAIWAIスポットのような場所がもっと増えて欲しい ・地域毎に当事者同士が知り合える場 ・少しでも家からでる場所があればいいと思う

声をあげにくい子ども・若者の意見を聴く取組

子ども・若者総合相談窓口での意見聴取（居場所事業参加者アンケート）

参加者・施設事業者の意見から

- ・体験や交流ができる場があることで、外へ出るきっかけになっている。
- ・自分だけではできないさまざまな体験ができています。仲間ができる。
- ・外へ出ることで自己肯定感があがる。 ・もっと近くにあればいいと思う。
- ・相談することで、気持ちが軽くなっている。抱えていたものが軽くなっている。
- ・相談だけではできなかった変化が、相談者に現われている。当事者同士の相乗効果で、変化が早まっていることがある。
- ・それぞれの課題を把握し、配慮しながら支援を組み合わせることが大切。
- ・多くの機関と関わることで、提供できる体験が広がる。次へ繋がることできる。連携の拡充も重要。
- ・この場所はゴールではない。あくまで次へ繋がるための段階的な場所だが、しんどくなったら戻れる場所でもある。

意見の反映

- ◎ひきこもり支援において、当事者交流、体験機会の提供の場は、次へ繋がるための段階的な居場所として機能できる。
 - ◎外へ出ることが難しいこともあるので、近い場所での「居場所」があると参加しやすい。
 - ◎社会や他者との関わりを、本人のタイミングに合わせ、効果的に進めるためには専門的な関わりが必要。
 - ◎多くの機関が協力しあいながら、支援していくことが効果的。
- 基本方針 3 **「子ども・若者の状況に応じた途切れない支援」**について、今回の意見を踏まえ、取組を検討していく。